

畑地高度利用のための好適後作物の選定と前後作の組合せ技術（追補）

（岩手農試 技術部・環境部）

1、背景とねらい

県中北部を対象として畑地高度利用のための好適後作物の選定と各作物の組合せ技術について昭和62年度指導上の参考事項に供した。技術内容として、①、類型Ⅰ（中心作物；小麦）、Ⅱ（同；レタス）、Ⅲ（同；ごぼう）を設定し、各々の中心作物毎に後作として組合せ可能な高収益作物（主に野菜）、②、各前後作を体系化するための組合せ技術（施肥技術栽培様式など）を示した。

このうち、類型Ⅱ（初夏どりレタスあとのマルチ再利用による適品目）について継続して試験したところ、新しい好適後作物として「はくさい」とその栽培技術について成果が得られたので、指導上の参考に供する。

2、技術内容

(1) 類型および好適後作物

類 型	中心作物	組合せ条件	好 適 後 作 物	備 考
Ⅱ、初夏どりレタスあとのマルチ再利用による適品目	レタス	ポリマルチの2度利用による省資源・省力化および畑地の高度利用化	はくさい スイートコーン えだまめ 小豆 (ベニダイナゴン)	62年度参考事項による(農試本場)

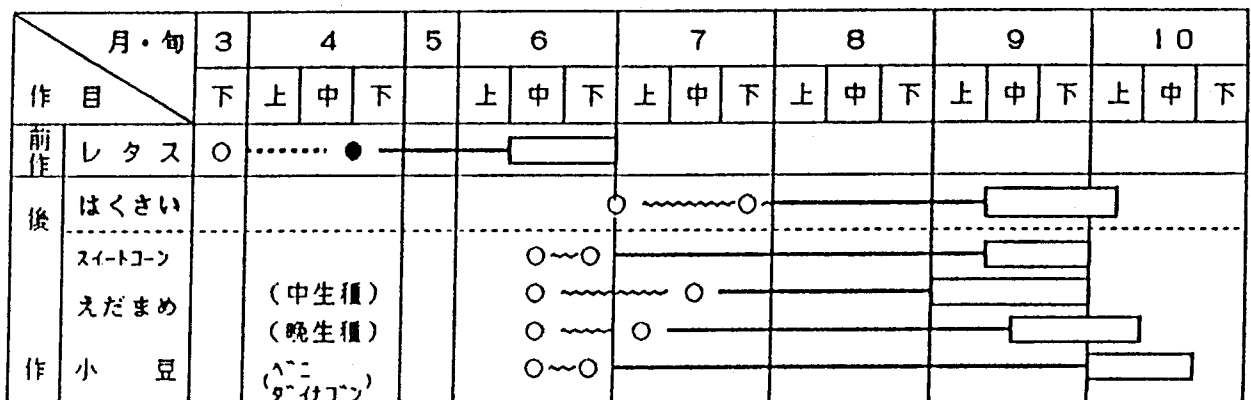
(2) 当類型における前後作の組合せ技術

ア、初夏どりレタス作付時に施肥量を増やすことにより、後作としてスイートコーン、えだまめ、小豆（ベニダイナゴン）のほか、「はくさい」の継続作付が可能である。増量割合は、スイートコーン・はくさいで50%、えだまめ・小豆で20%とする。標準的な栽培法を下記に示した。

項目 後作物	レタス作付時施肥量	栽 植 様 式		晩播限界	使用 マルチ
	N-P ₂ O ₅ -K ₂ O (kg/a)	栽 植 距 離 (cm)	a 当 り 株 数		
はくさい	1.8-3.0-1.8	100 × 27 (2条)	741	7月下旬	黒色 ポリ マルチ (9227B)
*スイートコーン	1.8-3.0-1.8	100x27(1条)/1本立	370	6月下旬	
*えだまめ *小豆 (ベニダイナゴン)	}1.4-2.4-1.4	100 × 27 (2条) /2本立	741	{ 中生7月中旬 晩生7月上旬 6月下旬	

*62年度参考事項による（農試本場）

(3) 当類型の作期は以下のとおりである。



○ 播種 ○ ~~~~~ ○ 後作播種可能期間 ● 定植 □ 収穫期

(4) 当類型におけるはくさい栽培は無マルチ栽培に比較し、腐敗球の発生が抑えられる。特に盛夏期を経過する9月から10月上旬どりに対して作柄が安定する。したがって、平地地帯でも6月下旬～7月下旬播種の作型が可能である。

(5) 適応地域 県中北部畑作地帯

3、指導上の留意事項

- (1) マルチ栽培によって、はくさいは軟腐病の影響を受けにくい、耐病性の強い品種（さくみどり3号など）を用い、かつ適期防除に努める。
- (2) 1作目のレタスでは増肥によっても過大球、変形球の発生が助長されず、品質、収量とも特に問題はない。ただし、肥沃な圃場では過剰生育など考慮し、適期収穫に努める。
- (3) レタスの品種はサクラメント、ゼニスとする。
- (4) マルチは雑草抑制のため黒色マルチを使用すること。

4、当該事項にかかる試験研究課題名

- (1) 県中北部における高収益畑作展開のための土地利用方式の確立
(高収益作物を中心とした作付体系)

5、参考文献

- (1) 昭和62年度指導上の参考事項「畑地高度利用のための好適後作物の選定と前後作の組合せ技術」
(昭和62年；農試本場)

6、試験成績の概要

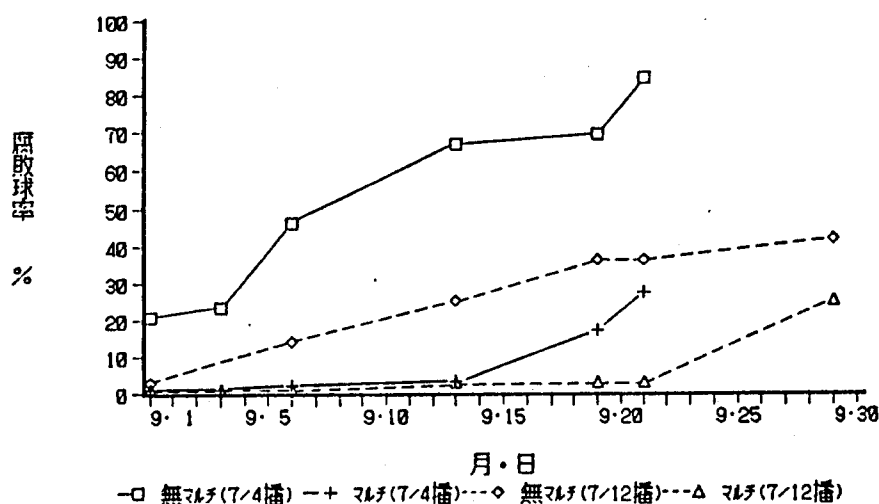


図1 マルチの有無とはくさい腐敗球の発生推移 (昭和63年)

表1 1作目レタスの生育・収量

年次	項目 試験区	全重 (g/個)	球重 (g/個)	球重比 (%)	球径(cm)		障害球 率(%)	収量 (kg/10a)	収量比 (%)
					縦	横			
61	比較(標肥)	590	339	100	12.9	13.8	-	2,512	100
	50%増肥	615	356	105	12.6	13.1	-	2,741	109
62	比較(標肥)	771	480	100	13.3	14.6	3.0	3,447	100
	20%増肥	812	503	105	13.8	15.2	3.8	3,584	104
63	比較(標肥)	895	522	100	13.2	14.1	4.6	3,431	100
	50%増肥	958	548	105	13.8	14.9	4.0	3,640	106
	70%増肥	993	600	115	14.0	14.9	8.6	3,303	96